

會務報告

第 27 卷 第 11 號 昭和 16 年 11 月

役員會

第 15 回理事會 (昭. 16. 9. 29.)

出席者： 黒田副會長，稻葉理事外 3 名，中村書記長，小野寺庶務主任外 2 名

報告

1. 朝鮮支部第 3 回役員會議事。
2. 華北支部役員氏名。
3. 滿洲土木學會第 1 回總會開催。
4. 中國四國支部發會式舉行。
5. 工業品規格調査委員會へ回答の歐延鋼材寸法。

議事

1. 中國四國支部規定並に内規の 1 部改正の件は原案の通り承認。
2. 華北支部昭和 16 年度收支豫算を別紙(省略)の通り承認。
3. 北京大學工學院へ土木學會誌(10 號より)を寄贈。
4. 北京近代科學圖書館へ土木學會誌(10 號より)を寄贈。
5. 常議員今井周君辭任に伴ふ補缺は改選の時期に選舉を行ふ。
6. 工業品規格調査委員會より照會に係る木材試験法の規格統一に関する回答は原案を鐵道，内務，大學に於て検討すること。
7. 對爆調査委員會委員に石塚久展君，森茂君を追加依頼。
8. 中國四國支部發會式費用として 300 圓を交附。
9. 入退會を別記の通り承認。

第 16 回理事會 (昭. 16. 10. 6.)

出席者： 谷口會長，吉田副會長，稻葉理事外 2 名，中村書記長，小野寺庶務主任外 2 名。

報告

1. 華北支部發會式記事。
2. 北海道支部防空施設促進懇談會記事。

議事

1. 本會出版の書籍類は爾今直接販賣としシビル社との販賣契約に對しては解除を申入ること。

第 8 回常議員會 (昭. 16. 9. 29.)

出席者： 黒田副會長，稻葉常議員外 9 名，中村書

記長，小野寺庶務主任外 2 名。

報告

1. 中國四國支部發會式舉行。
2. 滿洲土木學會第 1 回總會開催。
3. 對爆調査委員會委員依頼別紙(省略)。
4. 緊急防空施策案建議。
5. 正會員大岡禮三君の一時納付金基金に編入。
6. 英和工學辭典の著作者名を中村孫一とし定價を 4 圓とす。
7. 入退會承認別紙(省略)。

議事

1. 中國四國支部規定並に内規の 1 部を次の如く改正を承認。

支部規定

第 1 條 廣島ニ支會ヲ置キ之ヲ土木學會中國四國支部ト稱ス

第 6 條ノ商議員ヲ評議員ニ改ム。

支部内規

第 1 條 第 2 條及第 7 條中ノ商議員ヲ評議員ニ改ム。

第 6 條 本支部所屬各縣ニ支部長ノ承認ヲ經テ縣部會ヲ設クルコトヲ得。

第 6 條ヲ第 7 條トシ第 7 條ヲ第 8 條トス。

2. 華北支部昭和 16 年度收支豫算は原案の通り承認。

3. 常議員今井周君辭任に伴ふ補缺は改選の時期に選舉を行ふ。

總務部記事

防空土木施設促進北海道懇談會 (昭. 16. 9. 11.)

會場： 札幌市グランドホテル。

出席者： 高津，今村兩參謀，佐藤，藤原，町田，平尾，北海道應部課長，河崎，福山，木村，小出，千秋各札幌鐵道局部課長，吉田，湯口兩札幌遞信局部長，瀨田，平佐兩札幌市課長，平尾小樽市課長。齋藤委員長，高橋，谷口，宮澤各幹事。小野支部長，大坪支部幹事長，板倉支部幹事，岡本主事。

第 1 回對爆調査委員會 (昭. 16. 9. 19.)

出席者： 吉田委員長、奥田委員外 5 名、石塚君、小野寺庶務主任。

吉田委員長より本委員會設置の趣旨及調査方針等に就き説明あり協議の結果次の事項を決定。

1. 防空土木施設に關する恒久對策の參考資料たらしむるため内地、外地に於て調査研究せる凡ゆる資料を蒐集すること。
2. 幹事に本間仁君、最上武雄君を依頼すること。
3. 委員に森茂君(海軍)、石塚久展君(鐵道)を追加依頼すること。

第 2 回對爆調査委員會 (昭. 16. 9. 26.)

出席者： 青木、石塚委員外 6 名。

協議事項

1. 石塚、奥田、佐田各委員より資料目次の提示あり資料の蒐集、整理方針に就て協議し次回迄に資料の分類別原案を浄法寺委員に於て作成すること。

第 3 回對爆調査委員會 (昭. 16. 10. 7.)

出席者： 吉田委員長、石塚委員外 3 名、小野寺庶務主任。

協議事項

1. 資料分類整理に關しては次回浄法寺委員の意見により更に協議すること。
2. 蒐集せる資料は土木學會誌に會誌と同様の組方にて登載發表すること。
3. 現在の資料目次を第 1 輯として會誌に登載發表すること。

午餐會 (昭. 16. 9. 19.)

滿洲土木學會副會長及華北支部長招待。

會 場： 帝國ホテル。

出席者： 坂田滿洲土木學會副會長外 1 名、三浦華北支部長、谷口會長、吉田、黒田兩副會長、青木理事外 3 名、中村書記長、小野寺庶務主任外 1 名。

編 輯 部 記 事

第 10 回會誌編輯委員會 (昭. 16. 10. 8.)

出席者： 廣瀬委員長、安藝委員外 7 名、左合編輯主任外 4 名。

1. 第 27 卷第 9 號登載原稿謝禮を決定。
2. 第 27 卷第 11 號に無筋コンクリート標準示方書案第 1 部一般構造物を會告として追加登載することに決定。
3. 第 27 卷第 12 號登載原稿を次の如く決定。

論說報告

開多角形地に於けるトラバース測量の誤差檢査法 (正、安東功)、滯溜式洪水調節池の機能に就て (正、黒澤喜代治)、水門の流出係數に就て (正、本間仁)。

討 議

遼河々床砂礫の移動に關する研究 (正、隱塚延次郎)、著者 (正、永井莊七郎)

彙 錄

最近のセメント品質低下の趨勢に關する調査 (附最近の現場コンクリートの成績) (正、福島彌六)、各國の雜誌に現れた水理學の文獻 (7) 正、本間仁)、ドイツに於ける堰堤に關する發明 (1) (正、吉藤幸朔)。

抄 録

光電池測光の研究、作戰區域に於ける道路工事 (1)、コンクリート型枠に於ける鐵材節約 (1)、同 (2)、定流なるも水量の變化する場合の開水路の水面計算法、連續漿拱橋、鈹桁復鈹添接の研究、靜定水平推力を有する固定拱橋、Airy の應力函數による變位、米國々防道の新設計示方書、鐵筋コンクリート桁構特に拱橋の彈性的及塑性的變形 (其の 1)、St. Lawrence 河の開發、上水道幹線の掃除、鐵筋コンクリート桁構特に拱橋の彈性的及塑性的變形 (其の 2)、セメントに樹脂を加へる時の影響に就いて、防空都市。

4. 下記論說報告に對し討議を依頼するに決定

著 者 依頼先

流水壓及流水防衝工

正、原田 千三 (准、久保 義 光
准、丸 安 隆 和)

河相論特に河相と河川工法との關聯性に就ての研究

正、安 藝 蛟 一 (正、大坪喜久太郎
正、石原藤次郎
正、鷲尾 螢 龍)

開多角形地に於けるトラバース測量の誤差檢査法

正、安 東 功 (正、林 猛 雄)

滯溜式洪水調節池の機能に就て

正、黒澤喜代治 (正、伊 藤 剛
正、福 田 秀 夫)

水門の流出係數

正、本 間 仁 (正、横 田 周 平
正、佐 藤 清 一)

調 査 部 記 事

コンクリート調査委員會 (第 46 回堰堤コンクリート小委員會) (昭. 16. 9. 30.)

出席者： 沼田委員長、内村委員外 4 名。

協議事項

第 23, 24, 25 條の解説に付逐條審議。

コンクリート調査委員會 (第 47 回堰堤コンクリート小委員會) (昭. 16. 10. 14.)

出席者: 沼田委員長, 内村委員外 6 名。

協議事項

1. 一般構造物と重力堰堤との用語その他の點に就き打合せられたる結果に就き全條に互に審議。

2. 第 7, 8 條セメント及び第 48 條寒中コンクリートの施工供試體の寸法は再審議すること。

3. 第 8 條の解説を審議。

コンクリート調査委員會 (1 部, 2 部打合會) (昭. 16. 10. 2)

出席者: 沼田委員長, 内山, 畠山, 三島各委員, 磯崎君。

1. 第 1 部一般構造物の成案發表に當り第 2 部堰堤との用語その他に就き全條に互に打合せをなせり。

水理公式調査委員會 (幹事會) (昭. 16. 9. 30.)

出席者: 安藝, 本間兩幹事, 横田, 佐藤各部幹事, 内田囑託。

協議事項

各部幹事より提出の草案に對する経過並に検討を行ひ, 本間幹事の許に一括して取纏めることとす。尙水理公式に對する今後の研究題目に對して各委員より提案ありて意見の交換を行ふ。

華北支部發會式記事

日時: 昭. 16. 7. 4. (金) 午後 5 時

會場: 北京飯店

出席者: 來賓 43 名

會員 135 名

發會式順序: 開會の辭 準備委員 小澤久太郎君

東方遙拜

支部設立経過報告 發起人代表 佐藤俊久君

會長挨拶 土木學會々長 谷口三郎君

來賓祝辭 華北方面軍參謀長閣下

日本大使館參事官 土屋 豊君

華北政務委員會建設總署督辦 股 同君

同 教育總署督辦 周 作 人君

同 實業總署督辦 王 蔭 泰君

北支開發株式會社總裁 賀屋興宜君

華北交通株式會社總裁 宇佐美寛君

開會の辭 準備委員 秋山和夫君

記念講演: 最近の世界情勢 秋山 參 謀

土木學會華北支部設立に際し

正會員 工學博士 平井喜久松君

塘沽築港事業に就て

正會員 工學博士 高西 敬 義君

祝賀晚餐會: 北京飯店大食堂

發會式當日の狀況

式場は豫ねての手配に依りアカシヤの綠照り映へる北京飯店一階大廣間に舉行せられたのであるが當日午後 5 時近く日華來賓並に會准員續々來場せられ定刻 5 時を過ぐる間もなく開式するに至つた。參會者は來賓 43 名, 正會員 85 名, 准會員 50 名で建設總署並に華北交通よりの寄贈に係る小冊子 (華北建設三ヶ年, 華北交通, 北支蒙疆ところどころ, 華北交通指南) を記念品として配付し會員着席, 軍官公關係の來賓着席あつて先づ小澤準備委員より開會の辭あり, 上田準備委員進行係となつて嚴肅裡に東方遙拜, 次で發起人代表佐藤俊久君より本支部設立に至つた経過に關する報告あり, 次で三浦支部長一場の挨拶を述べ引續き本日發會式の爲めに東京より參列せられたる谷口會長挨拶の辭を述べられた。

次に特に本支部設立の爲めに配慮せられた北支方面軍參謀長閣下 (代理出席) の訓詞があり其他來賓祝辭として

日本大使館參事官	土 屋 豊
華北政務委員會建設總署督辦	股 同
同 教育總署督辦	周 作 人
同 實業總署督辦	王 蔭 泰
北支開發株式會社總裁	賀 屋 興 宜
華北交通株式會社總裁	宇 佐 美 寛

の方々より夫々支部設立を祝しその將來を激勵し期待する詞を賜つた。最後に内地各支部並に朝鮮滿洲支部よりの祝電披露を行ひ秋山準備委員の閉會の辭により發會式次第を盛會の裡に終了したのであつた。

終つて記念講演に移つたのであるが當日のプログラムに掲げた外に參謀部秋山參謀の特別講演があり時間の都合上第一に之を願ひ「最近の世界情勢」なる演題の下に滔々時餘に互つて熱辭を奮はれ參會者一同耳を澄ませて靜聽したのであつた。

了つて正會員平井喜久松君の「土木學會華北支部設立に際して」並に正會員高西敬義君の「塘沽築港事業に就て」と題する二講演あり。參會者は北支建設に活躍する二先輩の極めて有益な講演を拜聽することを得

た。

以上三講演を了り祝宴晩餐會に移つたのであるが同じく北京飯店大食堂に用意せる會場にて來賓を中心にして日華會員多數相加はり和氣霽々の裡に開始され交歡久しくデザートコースに入り再び三浦支部長より各來賓に對しては酷暑の折柄本支部の爲め參會せられた事を感謝され、又一般會員に對しては支部今後の活動に對して一致協力されん事を希望し參謀長閣下(代理)來賓を代表して謝禮を述べられ土木學會華北支部の萬歳を唱和し八時過ぎ散會した。

斯くて華北支部の出發は日華軍官公各方面の大なる祝福と期待を擔つて出足したのであるが今後如何に本

支部が活動し待望に對し如何なる貢獻を致すか一つに支部會員の努力の結果に待つと云ふ可く參會會員一同は更に新なる職域奉公の念を抱いて歸途についたのであつた。 以上

日本工學會記事

日本工學會第9回評議員會 (昭.16.9.17.)

1. 一般事務の報告。

その他記事

土木學會誌第27卷第10號を發行成規の手續を了し會員に配布せり。

入會及轉格會員

特別會員 (入會)

秋田縣土木建築工業組合

3級

正會員 (入會)

久 寶 保 服 部 進 一	岡田幸五郎	齋 謙 次 郎	星 野 洗	松田幸次郎
山 本 勝 也 井 原 隆 二	柴田外興治	吉 田 與 一		

准會員 (入會)

明 石 勝 伊 藤 鍊 次 郎	石 澤 賢 治	今 尾 博	白 木 誠	江 尻 唯 一
岡 本 福 三 川 崎 敏 行	久 野 信 夫	桑 原 泰 造	鴻 野 利 起	鮫 島 建 一
嶋 田 寬 柴 田 敏 雄	田 中 峯 三 郎	須 賀 正 三	土 居 虎 夫	谷 口 英 夫
西 山 登 西 村 學	橋 本 清	野 原 福 義	松 原 磐	藤 田 雄
宮 崎 貢 佐 藤 一 雄	竹 下 一	廣 瀬 正 雄		

學生會員 (入會)

小 田 村 泰 彦 岡 崎 勝	寛 嘉 一 郎	金 村 哲 太 郎	金 泰 植	佐 久 間 隆 吉
佐 藤 三 郎 月 野 弘	仲 本 逸 夫	長 岡 正 勝	西 元 生	比 留 間 豐
前 原 宜 政 松 本 敏 一	山 本 義 治	渡 邊 正	原 瀬 篤 治	吉 野 秀

正會員 (轉格)

阿 久 根 國 吉 安 部 松 之 助	淺 沼 順 一	栗 根 信 行	飯 野 忍	池 田 吉 宏
石 崎 貞 美 磯 野 邦 博	稻 邊 謙 夫	今 井 九 三	今 村 茂 修	入 江 繁 實
岩 村 積 滿 上 杉 林 藤	植 居 亮 太 郎	內 紀 成	榎 重 藤 直	小 笠 原 保 參
小 加 白 谷 新 廣 宮	佐 藤 嘉 道 生 吉 郎 光 晃 清	佐 藤 利 吉 靖 一 太 吾	藤 重 藤 直 文 清 長 太 正	小 久 水 首 田 二 東 水 倉
	須 田 井 義 茶 一 巧	田 島 田 福 原 尾	友 原 松 横	清 水 村 村 谷 義 光
	須 田 井 義 茶 一 巧	田 島 田 福 原 尾	友 原 松 横	清 水 村 村 谷 義 光

吉松精一 渡邊秋雄 猪瀬寧雄 大平章重 鳥田義章 小倉宏三
古江徳一

土木學會會員數 (昭.16.10.16.現在)

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	賛助會員	合計
2	3859	5569	1348	136	26	10940

正會員 三好貞七君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

准會員 岡崎武夫君, 岡部龍夫君, 千田長君, 横田幸夫君の訃報に接す
本會は恭しく哀悼の意を表す